

第2学年 国語科学習指導案

日 時 平成29年9月28日(木)
学 級 花巻市立東和中学校2年3組
(男子12名 女子14名 計26名)
授業者 教諭 藤原 見

- 1 単元名 四 関わりの中で さまざまな関係を捉え、考えを深める
教材名 「モアイは語る―地球の未来」 安田善憲(光村図書)
補助教材名 「イースター島にはなぜ森林がないのか」 鷺谷いづみ(東京書籍小6)

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、「さまざまな関係を捉え、考えを深める」ことをねらいとしている。本教材は学習指導要領「読むこと」の指導事項「イ 文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること」「エ 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと」に関わる部分である。

本教材「モアイは語る―地球の未来」は、有名なイースター島のモアイ像に関する文章である。かつてその島を襲った悲劇を通して森林資源の貴重さを改めて気づかせてくれる内容となっている。また内容面でも表現面でも、一年の「幻の魚は生きていた」を受け、三年の「月の起源を探る」へとつながり、環境や生命についての文章を読み、文章構成を考える系列をなしている。根拠となる事実を見いだした手順、その事実が物語っていたもの、現在に投げかけている問題。それらをわかりやすい文章構成で述べている。文章中の事実や根拠を確かめながら筆者の意見を読み取り、説得力のある表現について考える学習をさせたい。

(2) 生徒観

本校2学年の生徒の実態は、標準学力検査(平成29年1月実施)によると次の通りである。

領域別内容	全国比
話すこと・聞くこと	107
書くこと	102
読むこと	103
伝統的な言語文化と国語の特質	94

本学級の生徒たちは、課題に集中して取り組み、主題や要旨をとらえる力も育ってきている。文学的文章の心情描写や情景描写の優れた表現に関心が高く、話し合ったり人の意見を聞いたりする構えもよい。

反面、説明的文章は文学的文章に比べて読む意欲に欠け、論理的思考力を展開する力に劣る。説明文の意味段落のまとまりや構成をとらえるのが苦手である。また、要旨をおおまかにつかむことはできても、段落やまとまりの関係をつかむのが難しいと考える。授業での様子、課題のまとめの記述状況、検査等からみて、個人差がきわめて大きいのも実態である。

(3) 指導観

指導にあたっては、見通しを持たせる工夫に重点をおきたい。具体的には、位置づけた言語活動である比較読みがどういう力をつけるためのものか、めざす姿を明らかに示し、意欲化を図る。また、方法を見通す課題設定をし、どんな既習事項を用いてどのように解決するかつかませ、主体的・協同的な学び合いと課題解決場面を設定しふりかえりをさせたい。学び合いについては、考えを伝えることが中心の一方的なものにならないよう支援する。

説明的文章では、事実と根拠を正確に読み取らせ、それに対する筆者の主張について自分が感じたことを表現させたい。課題解決的な言語活動として言語活動例 イ「説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べること」を具体化した「比較して読む」活動をさせることで、作者のものの考え方や感じ方・筆者の主張へ理解を深めさせ、自分の考えをもたせたい。

3 単元の指導計画

(1) 単元の目標

- 読み取ったことをもとに自分の考えや感想をもととする。
- 各段落が文章全体の中で果たしている役割をとらえたり、叙述の順序に注意して読んだりして内容の理解に役立てることができる。(読むイ)
- 筆者の考え方について自分の知識や体験と関連付けながら考えることができる。(読むエ)
- 語句の効果的な使い方について理解を深め、表現に役立てることができる。
(言語についての知識・理解・技能)

(2) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・読み取ったことをもとに自分の考えや感想をもととしている。	・各段落が文章全体の中で果たしている役割をとらえたり、叙述の順序に注意して読んだりして内容の理解に役立っている。 ・筆者の考え方について自分の知識や体験と関連付けながら考えをもっている。	・語句の効果的な使い方について理解を深め、表現に役立っている。

(3) 指導および評価計画

時間	学習内容	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
1	自分や集団がどういう力をつけるための学習か理解し、「モアイは語一地球の未来」を読む。	・モアイについて興味をもち、文章を読もうとしている。	・文章を内容から三つのまとまりに分け、序論の問題提起をとらえている。	・重要語句に気を付けて読み、文章の理解に役立っている。
2 3	筆者の主張をとらえる。 文章の構成や論理の展開のしかたを読み取り、内容を理解する。	・筆者が主張していることを読み取ろうとしている。 ・序論の問題提起、本論の四つのまとまりの順序、結論での主張を読み取ろうとしている。	・筆者の主張をとらえている。 ・各段落が文章の中で果たしている役割、叙述の順序に注意して内容を理解している。	・キーワードをとらえ内容理解に役立っている。 ・まとまりを考える手段としてキーワードや接続語に着目している。
4	文章のもつ説得力、筆者の論の展開の仕方や主張について考えたことを交流する。	・文章の工夫点や効果、筆者の主張について自分の考えをもととしている。	・筆者の論の展開の仕方や文章のもつ説得力、筆者の主張について自分の考えをもっている。	・語句や表現の工夫に着目し、課題解決に役立っている。
5	補助教材の筆者の主張をとらえる。	・筆者が主張していることを読み取ろうとしている。	・筆者の主張を根拠をあげてとらえている。	
6 本 時	二つの文章を比較し、筆者の主張への理解を深める。	・筆者の主張や根拠について比較し自分の考えを表現しようとしている。	・本教材の主張に関わって自分の知識や体験と関連づけて考えを深めている。	

4 本時の指導

(1) 本時の目標

二つの文章を比較し、共通点と相違点を整理することにより筆者の主張への理解を深め、自分の知識や体験と関連づけて考えることができる。

(2) 本時の指導の構想

まずは教材「モアイは語る―地球の未来」の文章構成と筆者の主張を掲示して、補助教材「イースター島にはなぜ森林がないのか」の文章と比較しやすいような板書をして視点を与え、学習の見通しをもたせて意欲化を図る。

また、主体的な言語活動として、自分の考えをもった上でグループ内で交流する場面を設定し、二つの文章を比較して、本教材の主張に関わって考えを深めさせたい。

(3) 本時の評価規準

観 点	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への支援
国語への関心 ・意欲・態度	・他者の意見や説明に耳を傾け、意欲的に話し合い活動に参加しようとする。	・グループ内で、感想を述べたり気づいたことを話したりするように促し、友達の意見から納得した内容について書かせる。
読む能力	・筆者らの主張や根拠について比較し、本教材の筆者の主張について考えを深めている ・筆者の主張から自分の知識や体験と関連づけて考えを深めている。	・相違点を見つける視点を個別に確認して取り組ませる。 ・板書のなかでヒントを提示する。

(4) 本時の展開

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点 考 自分の考えを持つ場面 学 学びあう場面 書 書く活動 ◆評価 ◇支援
見通す	1 前時までの学習の確認をする。 2 学習課題を把握する。	・文章の構成、根拠や主張について掲示にて確認する。 ・二つの文章を比較することを確認する。	
学習課題 二つの文章を比較して気づいたことを交流し、筆者の主張について自分の考えを深めよう			
解決する	3 課題解決の方法を知り、自分の考えをもつ。 4 グループで考えを交流し、発表する。 5 学習のまとめをする。	・問題提起、答えと根拠、筆者の主張、展開、工夫点などの視点から重要語句や中心文を比較する。 ・共通点や相違点、気づいたことを書く。 ・共通点や相違点について話し合い、よりよい考えに気づいたり、足りない部分を補ったり、質問したりする。 ・発表内容から、さらに考えを深める。 ・筆者の主張から、自分がどんなことを考えたか書く。	◆先の文章にはない根拠を指摘できるか ◆筆者の主張が共通していることに触れているか 考 気づいたことを書く ◇板書を工夫し、根拠や主張を比べやすいようにする。 学 気づきや疑問をメモし、自分が納得した考えを書き足す。 ◆積極的に友達のことを聞いたり自分の考えを伝えたりしているか。 ◇グループリーダーを集めて経過を確認し、話し合いの視点を与える。 書 自分の知識や体験、身の回りのことなどにも触れて書く。
学習のまとめ 文章を比較して読むことで、私は筆者の主張についてさらに……ということを考えた。実際に……ということが起きており、その原因は、人間が自然環境を守らなかったからだと思った。 自然環境と地球の未来、人類の未来は深く関わっている。 森林の消滅させたことが文明崩壊を招いたことから、私たちは自然環境との共生のしかたを学ぶべきであり、便利な生活を追求し続ける限り自然環境の破壊は止まらないという危機感をもってこれからの生活を考えなければならないと感じた。			
振り返る	6 交流する 7 本時の学習について振り返る。	・発表したり聞いたりして課題についての学びを深める。 ・達成シートを記入し自己評価する。	◆考えを広げ学んだことを確認できているか。